

大田市教育魅力化プロジェクト

令和4年度活動報告書

大田市教育委員会
学校教育課 教育魅力化推進係

目次

〈大田市の教育の魅力化について〉

- 大田市の教育の魅力化 ▶ p.1
- 教育魅力化グランドデザイン ▶ p.2
- 取組の柱 ▶ p.3

〈高校魅力化〉

- 大田高校の教育魅力化 ▶ p.4-5
総合的な探究の時間
地域みらい留学への参画・大田高校魅力化コンソーシアムの取組
- 邇摩高校の教育魅力化 ▶ p.6-7
総合的な探究の時間
道の駅「ごいせ仁摩」との連携・邇摩高校魅力化コンソーシアムの取組

〈おおだ教育魅力化推進会議〉

- おおだ未来☆夢ランド ▶ p.8

〈育てたい子ども像を共有する体制づくり〉（よこの連携）

- コミュニティ・スクール ▶ p.9

〈学びの場づくり〉（よこの連携）

- おおだ共育共創ラボ（ダイコウラボ） ▶ p.10
- 大田市中学校拡大生徒会 ▶ p.11

〈幼・小・中・高の連携推進〉（たての連携）

- ふるさと教育 ▶ p.12
- ふるさと教材について ▶ p.12
- ふるさと夢未来講演会 ▶ p.13
- 小中高教職員合同研修会 ▶ p.14

〈情報発信〉

- おおだ教育月間 ▶ p.15

〈教育の魅力化 用語解説〉 ▶ p.16

令和4年度の教育魅力化推進係の取組を活動報告書にまとめました。教育魅力化コーディネーターを中心に様々な取組を進め、その取組を通して、新たな連携・協働の場面が増えました。

今後も学校・家庭・地域・行政が地域総がかりで学びを支え、教育環境の整備及び支援の充実を図る、「おおだの教育魅力化」を推進していきます。



大田市の「教育の魅力化」でめざすもの

ふるさとを愛し、持続可能なおおだを創る、心豊かな人づくり

「教育の魅力化」の目的

大田市がめざす人材の育成に向け、地域総ぐるみで0歳から18歳までの育ちに関わり、切れ目のない教育活動を推進するために、学校・家庭・地域・行政の連携を図りながら、魅力的な教育環境の整備及び支援の充実を図ります。

「教育の魅力化」を進めるにあたって

◆ 大田市は・・・

世界遺産「石見銀山遺跡とその文化的景観」を有する本市は、ユネスコの精神に基づき、「一人一人の人權が尊重される、心豊かな共生社会」の実現を目指しています。平成28年には、「ふるさとを誇り、大田と世界の未来を拓く」を基本理念とした「大田市教育ビジョン基本構想」が策定し、「生き抜く力を育てる」「あるものを活かす」「地域を支え、創る」を基本方針として取組を進めています。

学校や地域では、先人から受け継いだ、歴史・自然・文化などの大田市の宝を豊かな教育資源として活かしたふるさと教育が推進され、子どもたちのふるさとへの愛着や誇りにつながる貴重な学びとなっています。

◆ 大田市が抱える課題は・・・

大田市は進行する人口減少による児童生徒の減少、少子高齢化、市内県立高等学校への進学率の低下などの状況から、「このままでは持続可能な大田市が創れない」という深刻な地域課題に直面しています。未来に向かって、持続可能なおおだを創っていくためには、子どもも大人もふるさとに誇りや関心を持ち、関わっていこうとする気持ちを育てていくことが大切です。

子どもたちにとって、魅力的な大人との出会いや関わり、学校での学びを地域で実際に試しながら自分の答えを見つけ出していく経験は、これからの時代に必要な主体性や協働性を高め、生き抜く力を育みます。また、大人も子どもたちとの関わりや学びの協働を通して、ふるさとへの思いを新たに、地域の様々な物事を次世代への継承していく意欲を高めたり、主体的に地域を支え、創っていこうとする態度を育んだりすることにつながります。そして、これらの取組が、子どもも大人も豊かな学びや健やかな成長となり、地域の活力につながっていくことを期待しています。

◆ いざ、「教育の魅力化」推進へ・・・

大田市では、0歳から18歳までの子どもの育ちや学びの充実を図ることはもとより、学校・家庭・地域・行政が手を携えて、地域総がかりで学びを支え、子どもたちが地域の大人との関わりの中で育つ、教育環境の整備及び支援の充実を図る「おおだの教育魅力化」を推進していきます。そして、「かかわる」「ふみだす」「はぐくむ」をキーワードに、未来志向の教育の視点を入れて、「幼児教育・学校教育の魅力化」・「地域の魅力化」に取り組めます。

かかわる

一人一人が自分のこととして考え、多くの人と関わり、対話し、だれもが主体性をもって取り組もう。

ふみだす

新しい発想やチャレンジ精神をもって、だれもが一步踏み出し、自分や地域・世界の未来を創造しよう。

はぐくむ

ふるさとを愛する気持ちを力に、未来に向かって、みんなで共に歩む人づくりに取り組もう。

おおだ教育魅力化

『ふるさとを愛し、持続可能な おおだ を創る、心豊かな人づくり』

取組の柱

0 歳から 18 歳までの学び (大田市統一カリキュラムの活用)

[生き抜く力を育てる教育環境づくり]

- ① 幼児教育の魅力化
 - ・ 幼児教育研修 (幼小合同)
 - ・ 子ども読書活動
 - ・ ことばによる伝え合い
 - ・ 地域の「ひと・もの・こと」とのかかわりや豊かな体験
- ② 義務教育の魅力化
 - ・ 授業改善
 - ・ 本物にふれる学習環境の整備
 - ・ 地域に関わる学習の充実
 - ・ ふるさとキャリア教育
 - ・ 学校図書館活用教育
 - ・ ことばによる伝え合い
- ③ 高等学校教育の魅力化
 - ・ 学力育成
 - ・ キャリア教育・探究学習
 - ・ 地域・世代間交流
 - ・ 情報発信
 - ・ しまね留学
 - ・ オープンスクール
- ④ 特別支援教育の魅力化
 - ・ 連続性のある多様な学びの場の充実
 - ・ 特別支援教育に関する教職員の専門性の向上
 - ・ 就学前から学齢期、社会参加までの切れ目のない支援体制づくり



タテの連携 (幼・小・中・高の連携)

[0 歳から 18 歳までの系統性のある教育環境づくり]

- ① 系統的な学習プログラムの実施
 - ・ ふるさと教育・石見銀山学習・ふるさと教育担当者会
- ② 子ども交流の場づくり
 - ・ ふるさと夢未来講演会
 - ・ 中学校拡大生徒会
- ③ 大人の連携の場づくり
 - ・ 小中高教職員合同研修会
 - ・ 幼小連携会



ヨコの連携 (学びの協働)

[幼・学校と家庭・地域・行政が連携した教育環境づくり]

- ① おおだの教育資源を活かした活動
 - ・ 地域を学ぶ講座
 - ・ 伝統芸能・文化の継承
 - ・ 地域を知る
- ② 育てたい子ども像を共有する体制づくり
 - ・ 学校運営協議会
 - ・ 高校魅力化コンソーシアム
 - ・ 地域学校協働活動との連携
 - ・ 幼小連携会
- ③ 地域での学びの場づくり
 - ・ おおだ教育未来講演会
 - ・ おおだ共有共創ラボ

情報発信

- おおだ教育月間
- 大田市小・中学校教育サイト
- 大田市ふるさと電子教材
- 各校 HP

【事業の目的】身近な地域のひと・もの・ことを学びの素材に、体験活動や実際に地域の方と協働して課題解決型学習を行う。

地域の魅力や地域・社会の課題の探究を通して、自分が地域の一員として「やりたいこと」「できること」を探す。

【事業の概要】

1年生普通科：地域魅力発見学習

日 程：5月18日～7月13日（全12時間）

内 容：本活動は、大田で活動されている12人の講師の中から生徒自身が話を聞いてみたい講師を選び、講師の方が企画する体験活動を通じて、大田市の魅力について学ぶ機会となっています。また、体験後は自分たちが学んだことや考えたことを振り返り、その内容をポスターにまとめ、ポスターセッションとして発表し、ポスターは学園祭期間にも展示を行いました。

〈活動例〉

講 師：株式会社necco代表取締役 梶谷美由紀 様

内 容：山の駅さんべに行き、三瓶の食の魅力や、それを届けるために山の駅さんべが工夫していること、地産地消の魅力についてを教えてくださいました。活動の後半は、スタッフの方と交流会を行い、三瓶で働く魅力や高校生が感じる将来の不安についてなど、幅広く話をしました。普段なかなか出会えない地域の方と話すことができる貴重な時間となりました。

協 力：山の駅さんべのスタッフのみなさま

▼ 三瓶山を散策する様子



▼ ポスターセッションの様子



2年生普通科：地域課題解決型学習「ダイコウプロジェクト」

日 程：2022年5月～2023年2月（全35時間）

内 容：本活動ではグループに分かれ、地域と連携しながら、大田の地域の課題を1年かけて探究します。各グループごとに解決する地域課題を自ら設定し、地域に出かけ情報を集めるための「地域調査」、実際に課題解決策を実行する「プロジェクトの実行」、実行したプロジェクトの結果を振り返る「考察・検証」など、PDCAサイクルを意識しながら地域課題解決型学習に取り組みました。また、今年度は生徒の活動を伴走支援していただく伴走者との連絡ツールとしてLINEWORKSを導入し、生徒の疑問や困りごとを地域の方にサポートしていただきました。

〈プロジェクト例〉

テーマ：三瓶盛り上がり過ぎて芝生

課 題：三瓶の観光客数を増やし、三瓶を盛り上げる

内 容：三瓶の観光客数を増やすために、三瓶の美しい景観を活用したフォトスポットとして芝生アートの作成に取り組みました。芝生アートとは、芝生の草の長さを調節し文字や絵をすることです。生徒たちは、三瓶山だとわかるようなデザインにするために、芝生を刈り上げ右の写真のようなフォトスポットを作成しました。アンケートやインタビュー調査を行った結果、「素敵な写真が撮れてよかった」「今後も続けてほしい」等、観光客が訪れる新たなきっかけづくりになったという声が届き、活動の成果として、メディアにも取り上げていただきました。

▼ 作成した芝生アート



【担当者から一言】田中魁人（教育魅力化コーディネーター 大田高校担当）

今年度もたくさんの地域の方にご協力いただきながら、1・2年生の総合的な探究の時間を実施しました。中でも、2年生の地域課題解決型学習「ダイコウプロジェクト」ではLINEWORKSを導入したことで、昨年度、課題として挙がっていた生徒と伴走者との情報交換が格段にスムーズになりました。地域調査に出かける際のアポイントのことやプロジェクトの進捗共有をはじめ、LINEWORKSを通じ多くの励ましの言葉を地域の伴走者のみなさまからいただき、生徒たちも地域の中で積極的に活動することができました。例年以上に地域の方と密に連携することができた1年だったと思います。

▼ 地域の伴走者と打ち合わせをする様子



【事業の目的】 県外生徒の受け入れを通じて、高校生活での新たな出会いを生み、多様な価値観に触れることのできる環境をつくる。

【事業の概要】

地域みらい留学 オンライン合同説明会

日 程：6月4日（土）、7月9日（土）
方 法：オンライン

内 容： 県外生徒の募集のため、オンラインで行われた地域みらい留学合同説明会に参加しました。説明会には全国約90の高校が参加し、全国の中学生・保護者に向けて、学校説明を行いました。本校の説明会では県外から本校に入学した寮生が自身の体験を踏まえ、本校や大田市の魅力について語り、100名以上の方にご参加いただきました。

地域みらい留学 対面合同説明会

日 程：9月24日（土）
場 所：東京都 国立オリンピック記念センター

内 容： 当日、会場では全国73の高校（島根は11校）が参加し、県外生徒募集のための個別の説明会を行いました。本校のブースでは、11：00～16：00までの間、全ての時間で事前のご予約をいただき、進学を検討している県外の中学生・保護者と個別相談を行うことができました。

【担当者から一言】 田中魁人（教育魅力化コーディネーター 大田高校担当）

2022年度は5名の県外生が本校に入学しました。学校生活においては、1・2年生のどちらの県外生も、授業でのグループワークや学習活動以外の場面でも積極的に活動に取り組んでいます。また、その様子を受けて周りの生徒も視座を高めていることから、事業目的に沿った生徒募集を行っていると感じています！

▼ オンラインで学校説明をする様子



▼ 対面合同説明会の様子



【事業の目的】

本校のコンソーシアムは昨年度発足し、「地域とともに未来を切り拓く生徒を育てる」という目指す学校像の実現と、地域人材育成のため、地域と協働したカリキュラム開発や学校運営を行い、大田高校の教育活動をよりよいものにしていく。また、今年度より学校運営協議会を設置するにあたり、コンソーシアム役員のみなさまに学校運営協議会委員の兼務を委任した。役員会は下記の団体の代表者によって構成される。

大田市／政策企画部、大田市／教育委員会、大田商工会議所、大田市／社会教育センター、島根県立大学
大田市中学校長会、大田高校評議員、大田高校瓶陵会、大田高校PTA、島根県立大田高校 ※規約での記載順

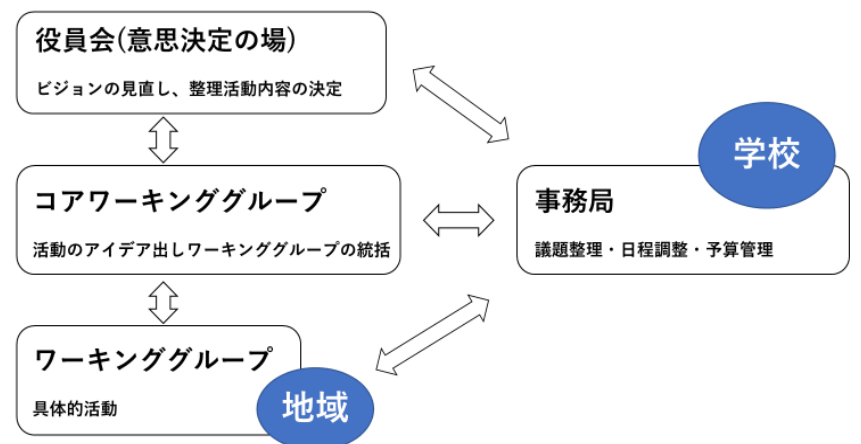
【事業の概要】

学校運営協議会 兼 大田高校魅力化コンソーシアム役員会

日 程：令和4年6月28日（月）
内 容：(1)学校運営協議会の運営等に関わる要綱について
(2)大田高校魅力化コンソーシアム規約の改正について
(3)本校の概況説明
(4)令和3年度事業計画及び決算報告
(5)令和4年度事業計画及び予算案について
(6)情報交換・意見交換

日 程：令和5年2月7日（火）
内 容：(1)令和4年度事業・会計報告(中間報告)
(2)学校評価について
(3)情報交換・意見交換

大田高校魅力化コンソーシアム組織図



【事業の目的】めざす生徒像

- (1) 自らの課題と目標を設定し、自己実現に向けて主体的に取り組む生徒。
... <創造>
- (2) 地域に愛着と誇りを持ち、将来、地域に貢献しようという志を持つ生徒。
... <勤労>
- (3) 多様性を認め、協働して問題を解決し、地域の発展に貢献できる生徒。
... <仁心>

【今年度のトピック】

- ・「大田市学校給食センターとの連携」
給食の食材提供（農業系列食品製造モデル）、給食メニューの考案（生活系列食物モデル）を行った。
- ・「ボランティア活動への参加」
地域で開催された様々なボランティア活動やイベントに、積極的に参加した。
- ・「学習成果発表会」
各学年で取り組まれた探究学習の成果の発表会を行い、3年間のつながりを共通理解できた。
- ・「しまね探究フェスタ」
西部会場（益田市）に参加し、探究学習の成果発表を行った。対面で他校生徒との交流ができ、大いに刺激を受けた。
- ・「総合学科発表会」
県内の総合学科4校がオンラインで探究学習の成果発表を行った。

【活動の様子】

▼大田市学校給食センターとの連携



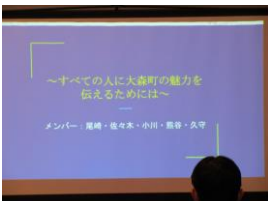
▼ボランティア活動への参加



▼学習成果発表会



▼しまね探究フェスタ



▼総合学科発表会



【事業の概要】

<1年生「産業社会と人間」>

【目標】

- ・出会いと関わり合いを通して視野を広げ、自分を見つめ、多様な価値観を育成する。
- ・将来の生き方や進路を見据え、主体的な系列・科目選択を実現させる。

「石見銀山保全活動」

〈事業の目的〉

世界遺産「石見銀山とその文化的景観」から最も近くに位置する高校であり、その資源を活かした実践活動を行うことで、地域から見た邇摩高校の有用感を高め、魅力化推進を図る。

〈事業の流れ〉

事前研修⇒保全活動の実施（10月）⇒事後研修

「その他の事業」

- ・職業講話
- ・ボランティア講話
- ・おもてなし講話
- ・サンドミュージアム花時計の植替え



<2年生「進路設計」>

【目標】

- ・地域で活躍できる人材を育成することを目指す。
- ① 地域課題を見つける。
- ② 地域課題を深く知っていく活動を通して、自分から地域の人と関わっていく力をつける。
(受け身から主体的に動けるように)

「石見銀山保全活動」

〈事業の目的〉

世界遺産「石見銀山とその文化的景観」から最も近くに位置する高校であり、その資源を活かした実践活動を行うことで、地域から見た邇摩高校の有用感を高め、魅力化推進を図る。

〈事業の流れ〉

保全活動の実施（4月）⇒グループ別に探究学習⇒学年発表会⇒学習成果発表会 ⇒総合学科発表会

「PBL型インターンシップ」

〈事業の目的〉

自ら課題をもって事業所に行き、職業体験をする中で地域社会の中での自分の果たしたい役割や取り組みたい課題、さらに学びたいこと・身につけるべきことを認識できるようにする。思考力、判断力、表現力などのコミュニケーション能力と、未知の状況にも対応できる力を育て、学習意欲や進路意識の向上を図る。

〈事業の流れ〉

研修先事業所の選択⇒実習生紹介シートの作成⇒ビジネスマナー講座⇒研修先事業所事前訪問 ⇒研修実施（1月）⇒振り返り・礼状送付

<3年生「銀の哲学」系列別課題研究>

【目標】

- ・主体的な学習の姿勢を貫き、系列学習の総まとめとして社会への理解と地域への愛着を深める。
- ・地域との関わりから課題を見つけ、協働的な取組を通じてより良い解決方法を具現化する。
- ・一人一人がリーダーシップの向上に努めながら思いやりをもって仲間とより良い人間関係を築くことで、人間性豊かな職業人・社会人を育成する。

「系列別探究学習」

〈探究の事例〉

- ・「地元給食メニュー」（生活系列食物モデル）
- ・「ICT教育を広めよう」（ビジネス系列）
- ・「体の柔軟性を高めて健康に過ごそう」（福祉系列）
- ・「ナシ婚を減らすには」（生活系列被服モデル）
- ・「自然クイズ作り」（生活系列保育モデル）
- ・「アールスメロンCultivation」（農業系列）
- ・「アスパラダイス」（農業系列）
- ・「在住外国人のみなさんの暮らしを良くする方法」（文化系列）



〈事業の流れ〉

系列別探究学習⇒系列別発表会⇒学習成果発表会⇒総合学科発表会

「邇摩高フェアの開催」

【目標】

学習を通して社会への理解と地域への愛着を深めさせ、「地域社会に貢献できる人材」を育成する。
◎3年生を中心に模擬会社「ファイブスターカンパニー」を設立し、企画・運営を行う。

〈事業の流れ〉

イベント開催のための基礎研修⇒社員集会⇒おもてなし研修⇒フェア開催
※3年ぶりに入場制限なしで開催し、多くの方（950名）に会場だけだ。

【担当者から一言】森本 学（教育魅力化コーディネーター 邇摩高校担当）

今年度は、地域の皆様のご協力を得て、ボランティア活動参加や仁摩小学校、大田西中学校との交流活動を行うことができました。

【来年度へ向けて】

- ・保、小、中、高の連携の充実を図る。
- ・課題研究の成果を地域に還元できるよう努める。

道の駅「ごいせ仁摩」との連携

【事業の目的】

高校と道の駅によるまちづくりという観点のもと、地域との共同活動、地域に開かれた学校づくりに努める。

【今年度のトピック】

- ・「ごいせジャムの販売」
- ・「農業系列販売会の開催」
- ・「石見神楽部の公演」
- ・「レストランメニューの考案」

【今年度の成果】

- ・「ごいせジャム」を販売することができた。
- ・農業系列販売会、石見神楽部公演には多くの方に来場いただき、交流することができた。
- ・課題研究の成果を「レストランメニュー」として採用いただくことができた。

【活動の様子】

▼ごいせジャムの販売 ▼農業系列販売会



▼石見神楽部公演



▼レストランメニュー考案



【事業の概要】

<ごいせジャムの販売>

農業系列食品製造モデルが製造した「ごいせジャム」を道の駅へ納品し、販売することができた。
※ごいせジャム・・・いちご、ブルーベリー、ぶどう、ゆず、天河内生姜の5種類の原料で作られている。290個納品し、ほぼ完売となっている。

<農業系列販売会の開催>

農業系列の生徒が、道の駅の「にぎわい広場」をお借りし、花の苗、パン、ジャム、味噌などの販売会を行った。生徒の発案で、大田市のマスコットキャラクター「らとちゃん」と「琴音ちゃん」の出演もあり、道の駅への来場さんと交流することができた。

(販売会開催日)

- ①令和4年 7月18日(土)
- ②令和4年10月22日(土)

<石見神楽部の公演>

石見神楽部が、道の駅の野外ステージをお借りし、自主公演を行った。また、大田市観光協会や大田市神楽連盟主催の公演会にも参加させていただき、多くの方と交流ができた。

(公演日)

- ①令和4年5月 4日(水) 大田市観光協会主催神楽定期公演
- ②令和4年7月 9日(土) 自主公演
- ③令和4年9月18日(日) (午前)大田警察署主催 (午後)大田市観光協会主催神楽定期公演
- ④令和4年9月23日(金) 大田市神楽連盟主催「白銀の舞神楽大会」

<レストランメニューの考案>

生活系食物モデルの生徒が課題研究で道の駅のレストランメニューを考案し、実際にレストランでクリスマスの特別メニューとして提供していただくことができた。

(クリスマスメニュー提供日)

令和4年12月23日(金)～25日(日) 1日10食限定

【担当者から一言】森本 学(教育魅力化コーディネーター 邇摩高校担当)

年度当初に、「道の駅との連携WG」を開催し、打ち合わせを行ったことで、様々な事業を実施することができました。参加した生徒も積極的に工夫をこらし、道の駅の利用者さんと交流することができ、良かったです。一方、課題研究で多くの生徒が特産品開発に取り組みましたが、実現には至りませんでした。後輩が課題研究を引き継ぎ完成させてくれることを期待しています。

【来年度へ向けて】

- ・地元産の塩を使った農産加工品づくりの研究を進める。
- ・新たな特産品開発に向けた課題研究を促進する。
- ・販売会や神楽公演などのイベントを開催し、来場者との交流を図る。

邇摩高校魅力化コンソーシアムの取組

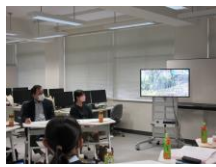
【事業の目的】

邇摩高校を核に地域の多様な関係者と生徒、保護者、教職員、同窓会等の邇摩高校関係者が協働体制を構築し、地域を支える人財育成のため、学校教育を充実させる。

【今年度の成果】

- ・定期的に会議を開催し、助言・指導いただくことができた。

▼役員会の様子



【事業の概要】

<役員会の開催>

【第1回役員会・学校運営協議会】

日時：令和4年6月28日(火)

- 内容：①学校運営協議会役員選任について
②令和4年度学校経営方針について
③コンソーシアム役員選任について
④規約の一部改正について
⑤令和3年度事業報告・会計報告・監査報告について
⑥令和4年度事業計画・予算について

【第2回学校運営協議会】

日時：令和4年10月6日(木)

- 内容：①県立学校スクールミッションについて
②邇摩高校魅力化について

【第2回役員会・第3回学校運営協議会】

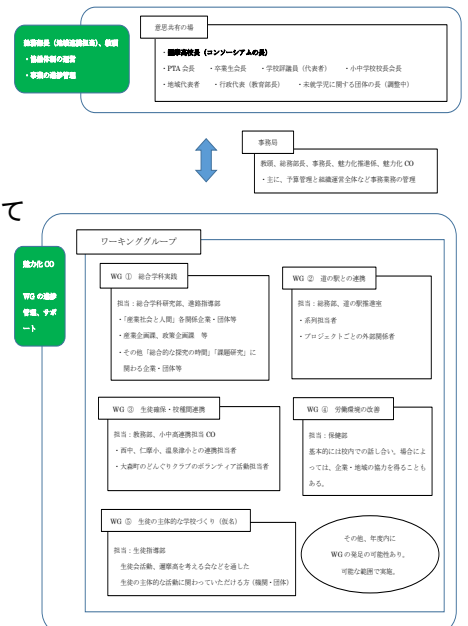
日時：令和5年2月17日(金)

- 内容：①令和4年度事業中間報告について
②令和4年度決算見込みについて
③学校評価について
④令和5年度ランドデザインについて

【来年度へ向けて】

- ・委員の皆様「仁心祭」や「学習成果発表会」に参加いただき、より具体的な助言・指導をいただく。※「仁心祭」には、文化祭の部、体育祭の部があります。
- ・ワーキンググループの活用を図る。

▼邇摩高校魅力化コンソーシアム組織図



【事業名】

「おおだ未来☆夢ランド」

・大田市における教育について、多様な立場の関係者が主体的・創造的な議論を行い、大田市の子どもや大人の豊かな学びや健やかな成長を支援し、大田市における教育魅力化の一層の推進を図る。

【事業の目的】

- (1) 未来志向の教育に関すること。
- (2) 一人一人の人権を大切にする教育に関すること。
- (3) 地域とともにある学校づくり、地域の特色を活かした学びに関すること。
- (4) その他、教育の魅力化推進のために必要と認められること。

以上の事項について審議し、具現化することをめざす。

【事業の概要】

- 期日 第1回：令和4年12月 2日（金） 14：00～16：00
第2回：令和5年 1月27日（金） 10：00～12：00
- 会場 市役所・4階大講堂
- 委員 大田市における教育に関心があり、教育の魅力化推進に貢献できる者14名
- テーマ 第1回：「未来につなぐ豊かな学び」について
第2回：「大田市の特色を生かした地域総がかりの学び」について

【コーディネーターとしてのかかわり】

県外の委員がおられるため、会場参加とオンライン参加のウェブ会議の形式をとっています。そのため、各委員の出欠確認を含めた連絡調整をはじめとして、会議実施以前の準備には万全を期すようにしました。各種資料提供、会議テーマの事前周知等、限られた時間を実のあるものにできるよう努めました。

【成果】

全国的な課題となっている不登校児童生徒に対して、手仕事を題材とした探究学習とインターンを実践できる「ゴッドハンズプロジェクト」を、大田市を学びの場として実施することができました。また、大田遺産を子どもの手で作っていく取組、そのためにアクセスの悪い大田市を逆手にとって、バスの無料バス等の発行という取組ができるのではないか。さらに、学校に任せてきたふるさと教育や体験学習を、明日の教育を作るという視点で学校再編と絡ませて共通なものを作っていくらどうか。子どもの声でまちづくりを進めることで、大人もエネルギーをもらえるのではないかと等々の具体的な提言とともに、公費に頼らず自分たちの手で財源を確保することが、様々な取組の具体化には、益々必要であり重要になっていくことの共通理解が図られました。

【担当者から一言】 酢谷昌義（教育魅力化主任コーディネーター）

幅広い委員の参加に対応するために、オンライン会議の形態は当然の状況です。音声をクリアに届けスムーズな運営に努めることと、テーマの設定に工夫を凝らすことで、さらなる会議の活性化を図ることが必要です。

【来年度に向けて】

教育関係者に限らず、様々な分野で活躍されている方のご意見ご提言を聞くことは、大田市の教育をこれまで以上に魅力的な取組にしていくためには欠かせません。新たな視点に立ち、創意工夫を凝らしていくことが何よりも望まれますが、予算や人材の確保など、簡単には解決できない問題も多々あり、関係者はもちろん市民総がかりで乗り越えていくために、引き続きできることから具体化を進めていくことが必要です。



▲ 第1回会議の様子



▲ 第2回会議の様子

【事業の目的】

学校と地域が連携・協働して学校運営に取り組む「地域とともにある学校づくり」を進める。

【事業の概要】

コミュニティ・スクールは、学校運営協議会を導入した学校のことを指します。学校と地域住民・保護者等が力を合わせて学校の運営に取り組む「地域とともにある学校づくり」をより推進するための仕組みです。

大田市には、世界遺産をはじめとして日本遺産・自然・歴史・文化と誇れるものがたくさんあり、子どもたちはそれらの地域資源「ひと・もの・こと」に触れながら多くの学びや体験をしています。

一方で子どもたちを取り巻く環境も変わり、これらからの時代を生き抜く力を育んでいかなければなりません。また、学校が抱える課題は複雑化・多様化しており、学校だけで解決するのは難しいこともあります。

市としても、人口流出や少子化から様々な課題を抱えており、このままでは持続可能な大田市が創れない状況にあります。

持続可能な大田市を創っていく、未来の担い手となる子どもたちに必要な資質・能力を育むためには、教育や人づくりに力を入れていかなければならないと考えます。学校・家庭・地域・行政が地域総がかりで手を携えて、子どもたちの豊かな学びを支えていく必要があります。

そこで大田市では、地域の未来を担う人材育成にむけた体制の構築が必要であると、地域の方が学校運営に参画できるしくみであるコミュニティ・スクール（学校運営協議会制度）を導入しています。

学校運営協議会を導入することにより、「めざす子ども像」やビジョンを学校と地域で共有し、「そのために学校・家庭・地域ができることは何か」と具体的方策を考えるなど、学校運営に地域の声を積極的にいかにすることができ、それにより、地域と一体となって、特色ある学校づくりを進めていくことができます。

今年度は、市内8校に学校運営協議会を設置し、市内全ての小中学校がコミュニティ・スクールとなりました。（学校運営協議会を設置した学校をコミュニティ・スクールとよびます。）

コミュニティ・スクール推進に係る研修会

- 日 時 令和5年1月31日（火）14:00～16:15
- 場 所 大田市役所・4階大講堂
- 参加者 第一中学校区学校運営協議会委員ならびに地域学校協働本部ネットワーク会関係者 24名
- 内 容

- ① 学校運営協議会と地域学校協働活動の一体的推進について説明
- ② 事例発表1 久屋小学校
- ③ 事例発表2 第一中学校区地域学校協働活動
- ④ グループワーク、全体共有

○参加者感想

- ・学校と地域の関係をより深く理解するには、まず話し合うことで、共有する問題点をはっきりさせ、その問題の解決にむけて努力していきたい。問題を明確に共有するためには話し合うことが重要だと思った。
- ・本音がたくさん話せてよかった。とても有意義な時間だった。
- ・学校運営協議会のあり方について、具体的なテーマを決めて話し合うことが大切なのではないかと感じた。今後もこのような会を継続してほしい。
- ・それぞれの立場での思いを共有できました。
- ・貴重な意見や各々の思いが出され、子どもを育てる熱意を感じた。
- ・地域が好きになり、地域に貢献しようとする人づくりをしていきたい。



【担当者から一言】石橋圭子（派遣社会教育主事）

久屋小学校の発表は学校運営協議会で協議されたことが地域学校協働活動に反映された事例、第一中学校の発表は地域学校協働活動で提案し、実施した中学生の活動を学校運営協議会で評価・検討する事例でした。これから学校運営協議会と地域学校協働活動を一体的に進めていくうえで、とても参考になる発表だったと思います。

市内全域で学校と地域とで連携・協働して子どもたちの学びや成長を支える土壌がより豊かになるよう、学校運営協議会と地域学校協働活動が一体的に推進を目指して社会教育課とさらに連携していきたいと思っております。

【事業の目的】

高校生と地域の大人が共に育つ地域、教育コミュニティをつくる。

【事業の概要】

ダイコウラボとは、多様な出会いの機会の創出と、高校生と地域の大人が一緒になって、高校生が考える身の回りの課題解決や「こんなことをやってみたい」という思いを実現する場です。

<今年度ダイコウラボで生徒たちが行ったプロジェクト>

▼アナゴプロジェクト(大学・企業と連携)

アナゴプロジェクトでは、1年生4名が関西大学の学生と一緒に大田市を代表する食材“アナゴ”を使った商品開発を試みています。生徒たちはアナゴに関する知識やアイデアを蓄えるため、有限会社岡富商店や和江漁港等を訪れ、商品案を練っていました。現在は高校生チームが商品企画、大学生チームがパッケージやメディア戦略を考え、オンライン会議等を重ねながら進捗を共有しています。来年度中には商品を販売する予定なので楽しみにしてください！



▼空き家プロジェクト(地域の大人と連携)

空き家プロジェクトでは、2年生8名が高校の近くにある使われなくなった空き家を地域の方と協力して、リノベーションに取り組んでいます。生徒たちは空き家の中にあつた荷物の移動や脆くなった床をはがしたり、室内の清掃をしたりなど、自分たちにできることから取り組んできました。現在、大田市内の工務店や材木店の方の力を借りながら新しい床の制作に取り組んでいます。完成したスペースは今後、地域の方と高校生の交流スペースとして、活用していく予定です！



▼バズギフトプロジェクト(企業と連携)

バズギフトプロジェクトでは、2年生2名が大田市にある森田製菓株式会社と協力しながらバズるギフト(お菓子)の商品開発に取り組んでいます。これまで開発した「いちごオレようかん」、「ブルーベリーグミゼリー」での経験を活かしながら、市内の方や大田を訪れた人に喜んでいただける商品を作成する予定です。完成した商品は市内を中心に店頭での販売を予定しています！



▼大田警察署とのコラボプロジェクト(警察署と連携)

大田警察署とのコラボプロジェクトでは、1年生5名が大田警察署と協働しながら、イベントの開催を計画しています。これまで生徒たちは警察官のことを知るために、警察署で開催された交流イベントに参加し、大田警察署の困りごとを聞いたり、それに対して高校生が貢献できそうなことを提案したりしました。現在、イベントの開催に向けて定期的に打ち合わせを行っており、来年度の6月ごろにイベントを実施する予定です！



▼大筑プロジェクト(大学と連携)

大筑プロジェクトは、世界遺産の研究をするも中々現地に行けない筑波大学の大学院生に代わり、小さい頃から大森を知る高校生が現地調査を行い、お互いにとって学びある活動にすることを目的に始まりました。この活動には本校の2年生2名が参加し、協働研究を行っています。現在、生徒たちは県内に住む若い人に大森の魅力を伝えるための観光に特化したフリーペーパーを作成しています。発行は3月末の予定です！



【担当者から一言】

今年度も、たくさんの生徒・地域の方にご参加いただきながらダイコウラボの場づくりを行うことができました。

今年度は例年に比べ、意欲的にプロジェクトに取り組む生徒が多く、沢山のプロジェクトが生まれました。本誌に掲載できなかった計画中のプロジェクトもあります。このダイコウラボは、生徒の「こんなことをやってみたい」という思いと、それを支える地域の方の存在があるからこそ実現できる活動だと思っています。地域の皆様、今年度も大変お世話になりました！

田中魁人（教育魅力化コーディネーター 大田高校担当）

【事業名】

「大田市中学校拡大生徒会」

【事業の目的】

- (1) 市内中学校の生徒会役員がそれぞれの思いを交流することで、生徒同士が互いに刺激し合える機会とする。
- (2) 自校生徒会の取組方針を中心として意見交換をすることで、生徒会の計画と今後の実践をよりよくしていこうとする意欲を高める。
- (3) 大田市の中学校として連帯感を高める。

【事業の概要】

- 期 日 令和5年2月2日（金） 16:00～17:00
- 方 法 WEB会議（Zoom）
- 参加者 各校2年生：新生徒会役員（3～5名程度）
- 内 容 ①自校の特色ある生徒会の取組方針を報告し、それを基にした意見交換を行う。
②各校の生徒会で共通して取り組んでいける実践はないか意見交換を行う。
（※時間の都合で①の意見交換のみの実施となった。）

【コーディネーターとしてのかかわり】

昨年までの取組「教育長と語る会」から、生徒同士が互いに刺激しあえる機会に変えていくために、市内6校の生徒会役員が無理なく参加できるようにウェブ会議の形式をとりました。新たな試みとなるため、中学校長会との連絡調整に努め、限られた時間ですが、ねらいの達成に向けた、実のある事業にできるよう努めました。

【成果】

- ・初めての取組でしたが、活発な意見交換が行われ、他校の実践を取り入れようと感じた生徒が多く、刺激を得るとともに視野を広げる機会にもすることができました。
- ・学校規模の違いをそれぞれが改めて自覚し、そのなかで自校の生徒会活性化の方策を考えようとしていました。
- ・自分たちだけでは考えられなかった実践内容を知ることで、他校の生徒会役員との交流の意義を感じた生徒が多くいました。
- ・次回の開催を楽しみにしたり、学期ごとの開催を望む声が出たりしています。テーマを提案するなど積極的な姿勢を示し、この会のさらなる充実を期待する生徒が多くいました。

【担当者から一言】酢谷昌義（教育魅力化主任コーディネーター）

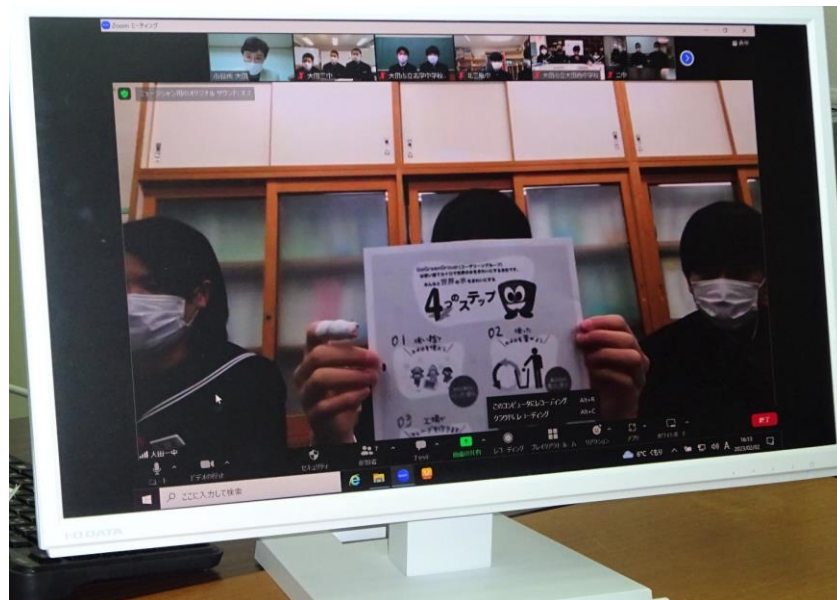
市内6校の生徒会役員が一堂に会し、意見交換を通して各校の取組を活性化させることを目指して企画を始めました。しかし、諸事情によりオンライン会議の形態で実施することとなりました。輸送の問題は解決の見通しが立ちましたが、実際に一堂に会して行うためには、各校の行事をはじめとした綿密な調整が必要で、中学校長会とのさらなる連携が欠かせません。

【来年度に向けて】

- ・この会の意義を実感した生徒がほとんどで、さらに充実させていく必要があります。一堂に会して行うことが望まれますが、開催時期・生徒移送・時間設定等の課題があるので、具体的な計画案を早期に提示し、中学校長会との連携を今まで以上に深め、よりよい実施に向けて取り組みたいと思います。
- ・会の公開に向けた準備や調整について、段階を踏んで進めていきたいと思っています。



▲ 会議の様子



▲ 自校の取組を紹介する参加者

【大田市のふるさと教育の目標】

☆児童・生徒

- 地域の「ひと・もの・こと」との関わりを通して、ふるさとへの愛着や誇りに思う心を育てる。
- ふるさとへの理解を深め、地域に貢献しようとする態度を育てる。

☆地域の大人

- 地域に関連する様々な物事を継続して学び、次世代への継承意欲を高める。
- 主体的に地域を支え、創っていかうとする態度を育む。

【事業の概要】

今年度も大田市の小・中学校では、ふるさと教育を行いました。子どもたちは、大田市ならではの自然・歴史・行事等について理解を深め、ふるさとへの愛着や誇りを育てています。また、多くの地域の方が子どもたちの学習に関わってくださり、新型コロナウイルス感染拡大防止に配慮しながら、特色ある学習が行われました。教育委員会では、ふるさと教育を各校で推進していくために、ふるさと教育担当者会とふるさと教育広報誌の作成を行いました。

ふるさと教育担当者会

- 目的 島根県や大田市のふるさと教育の方針について理解し、各中学校区におけるふるさと教育の充実を図る。
- 日時 令和4年4月27日（水）15:00～16:30
- 場所 大田市役所 大講堂
- 参加者 市内小・中学校のふるさと教育担当者 21名
- 内容
 - ・大田市のふるさと教育の方針（目標）について説明
 - ・中学校区のふるさと教育全体計画の見直し
 - ※グループ協議（昨年度見直しをした「児童・生徒の実態」をもとに、ふるさと教育でめざす児童・生徒像、つきたい力等について協議）
 - ・全体共有



グループ協議の様子 ▶

○参加者感想

- ◆ふるさと教育について、班内の様子を聞くことができよかった。また活動が体験で終わることのないように、振り返るときにふるさとの良さに気づく等の視点について振り返られるようにすると、各学年の活動がつながり、深まるという話ができた。
- ◆前年度からの継続で見直しがあったのはとてもよかった。こうした継続の取組が実績につながると思った。
- ◆「子どもたちにつけたい力は何か」という育成をめざす資質能力を明確にして取り組むことはとても大切であるとグループで話をしながら感じた。
- ◆中学校の先生と小・中学校9年間を通して、どのような力をつけていくのか、そのためにはどのような教育活動を行っていけばよいのかを、じっくり話し合うことができた。
- ◆校区内での課題を共有することができ、お互いにどんな学習をしているのかを話す機会がないので、このような機会があったよかった。
- ◆ふるさと教育を学力育成と関連させることは難しいと感じましたが、「自ら進んで考えること」「振り返りをして自分の言葉でまとめる」ことなどを通して、学びに向かう力を養うことにつながると感じました。

ふるさと教育広報誌作成・配布

市内小・中学校で行われているふるさと教育について、市民に広く知っていただくために、2月の「おおだ教育月間」（※p.15参照）に併せて広報誌を作成し、全戸配布しました。身近な地域はもちろん、市内の魅力ある地域資源「ひと・もの・こと」について知っていただく機会となりました。

【担当者から一言】石橋圭子（派遣社会教育主事）

今後は、地域の方ともふるさと教育を通して育成したい力について共通理解を図りながら取り組めるような手立てや研修を企画していきたい。

「おおだ市のふるさと教材」電子書籍化

【事業の目的】

・子どもから大人までが大田市の固有の歴史や文化など、様々な特色を自由に学べる電子教材を製作し、学校の学習での活用をはじめ、多くの市民に改めて大田の魅力を発信する。

【事業の概要】

- 久手～お話つむぎ（久手の昔話）の電子書籍化
- 令和2年度データ化した三瓶山の自然保護活動の電子書籍化

【コーディネーターとしてのかかわり】

・完成が年度末となり、教材の活用を図ることができなかった。誰もがアクセス可能にすることはもちろん、具体的な活用方法を提案できるようにすることが課題である。

【成果】

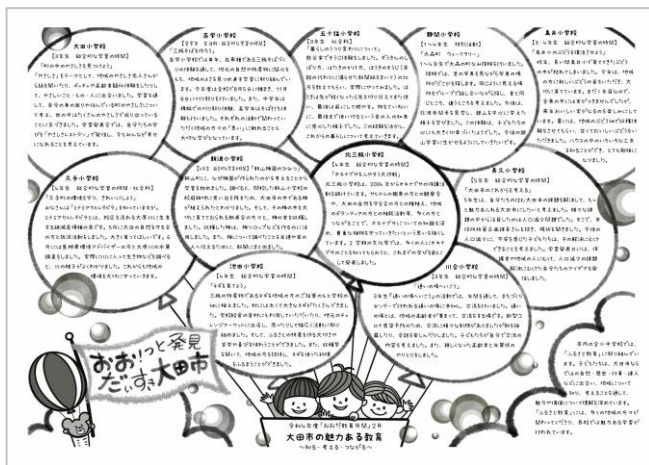
・「大田市小中学校教育サイト」から自由にダウンロードできるので、学校や園などの教育施設に限らず、広く市民も活用することができる。

【担当者から一言】酢谷昌義（教育魅力化主任コーディネーター）

・「わが里おおだ」に対する愛着と誇りを育て、未来に向かってより良い社会を築いていこうとする、心豊かで前向きに生きる市民が増えていくことを期待し、そのための活用を模索していきたい。

【来年度に向けて】

・幅広く利用してもらうためにも、市内各地に残る昔話を収集し、データ化を進めるとともに資料を蓄積していく。



【事業名】

「ふるさと夢未来講演会」

・将来の「ふるさと」を担う人材育成をめざした「おおだ教育魅力化推進事業」のなかの中学校・高等学校交流事業

【事業の目的】

中学生と高校生が自分の未来社会の実現に向け、夢を実現した実践者の話を聞き、互いの感想や未来への夢を語り合う場をもつことで、「夢をもつこと」「夢の実現に向かって努力すること」の大切さについて学ぶ。

【事業の概要】

- 期 日 令和4年12月2日（金） 14:00～15:30
- 会 場 あすてらす・ホール
- 講 師 国立研究開発法人海洋研究開発機構
海洋生物環境影響研究センター：センター長 藤倉 克則氏
- 演 題 『深海生物や海洋プラスチック問題から教えられたこと』
- 参加者 会場参加140名（大田高校2年生・大田一中代表生徒）
オンライン参加320名（大田高校1年生・大田一中・大田二中）
当日参加460名・録画視聴300名...参加者総数760名

【コーディネーターとしてのかかわり】

多くの学校が無理なく参加できるようにすることに配慮しました。具体的には、①会場参加・②オンライン参加・③後日の録画視聴という、3つの方法から各学校が選択しました。オンライン配信では、会場参加できない学校も積極的に質疑に参加してもらい、参加校相互の連携を図ったり、高校生の活躍を直接感じたりすることができるようにしました。さらに、録画を講演会後の早期に視聴できるようにしたことで、事前に指導者が確認し、校種や学年・学級の実態に応じて活用できるようにしました。

【成果】

講師が研究者で、講演内容は専門的な部分も多くありましたが、子どもたちにとって未知な情報がほとんどで、新鮮な驚きと刺激を与えることができました。このことは、生徒の感想の中に多く表れており、興味深く聞いたことが十分にうかがえました。講師自身の夢に触れていただいたことで、子どもたちには漠然とした未来像であっても、熱中できるものを発見するために多くの経験をすること、目標を立てたらその実現に向けて、さまざまに学び試行錯誤してみることで結果がついてくることなど、自分の未来・夢の実現に向けて考えるまたとない機会にできました。

【担当者から一言】酢谷昌義（教育魅力化主任コーディネーター）

多くの参加者に対応するために、オンライン配信は欠かせない状況になっています。その際、音声をクリアに届けることが必須です。ネット環境の問題もありますが、機材の整備と充実はもちろん、配信先との連携にも力を入れ、スムーズな運営に努めたいと思います。

【来年度に向けて】

全国的な様々な分野で活躍されている方の講演を聞くことは、これからの未来社会を子どもも大人もイメージし、そこにどのような仕事があり、どのような力をつけていけばよいのかを考えるためには欠かせません。学校の学びだけではできない新鮮な驚きや刺激を与えるために、引き続き事業の充実を図りたいと思います。



▲ 講演会の様子



▲ オンライン参加者との質疑応答

【事業の目的】

- 市内の小・中学校、市内県立高等学校の教職員を対象に、大田市の魅力ある教育資源を視察していただき、大田市への地域理解を深め、子どもたちへの教育活動に役立ててもらおう。
- 異校種の教職員が合同研修会に参加することで、よこのつながりづくりの機会とする。

【事業の概要】

- 日時 令和4年8月9日（火）8：50～12：00
- 場所 大森町並み交流センター（旧大森区裁判所）
町並み地区
- 参加者数 24名
- 内容
 - ・石見銀山資料館（いも代官ミュージアム） 仲野義文館長による講話 演題「日本遺産を学ぶ」
 - ・コースにわかれて見学
 - ①大久保間歩コース
 - ②福光石の石切場コース
 - ③町並みコース・・・五百羅漢・栄泉寺・井戸神社・熊谷家・石見銀山資料館・城上神社 等



【今年度のトピック】

大田市では、市内小・中学校に初めて着任した教職員を対象に、さまざまな教育資源や代表的な施設等を見学してもらい、大田市への理解と子どもたちの教育活動に役立ててもらうことを目的として、教職員研修を行っています。昨年度は、石見銀山学習をテーマに、発展的な学びの実践事例を知る研修を行いました。今年度は、令和2年に認定された「日本遺産」を切り口に、校区にある日本遺産を地域の宝として広く周知し、学習の場としても活用してもらえよう研修を企画しました。

【今年度の成果】

今年度は、「日本遺産」を1つのテーマとして小・中学校の教職員だけではなく、市内県立高等学校の教職員も一緒に研修できる場を設け、大田市の地域資源にはどのようなものがあるのかを知ってもらい機会となりました。

▼ 石見銀山資料館館長による講話の様子



- ◆世界遺産と日本遺産の違いについて、また日本遺産のストーリー作成のノウハウを学校の授業に活かしていけることについて大変興味深く聞くことができたととてもよかった。
- ◆最も印象に残っているのが、大田市について知るためには「日本遺産」について知ることが良い方法であるということ。大田市の日本遺産についてさらに興味をもつことができた。
- ◆日本遺産が従来の「保存」重視ではなく、「活用」を重視していることや、ストーリーとして理解する設定になっていることなど、いろいろと興味深い話を聞くことができた。
- ◆日本遺産は、点在する遺産を「面」として活用・発信することを重視している。このことが、地域のブランド化・アイデンティティの再確認を促進することにつながり、教材化することで、子どもたちがより地域を知ることができるとうわかった。
- ◆点でとらえるのではなく、面でとらえ、ストーリーを学び、教科横断的な扱いをすることで大田市全域が地域教材として開発できるのではないかと思った。このことは郷土への愛着も育み、人口流出を防ぐためにも有効であり、発信することで、流入にもつながる可能性を秘めているのではないかと思う。
- ◆世界遺産とは違うコンセプトが、非常に新鮮で興味深いメッセージとして響いてきた。史実や遺産の細かな説明にとどまるのではなく、そこに同時代、時系列のつながりや因果関係をもたせて歴史の営みを俯瞰する。それにより、歴史や遺産が生命力をもって躍動する迫力が迫ってくる気がする。観光資源・教育資源としての益々の活用を我々が受け継いでいく必要があると感じた。

▼ 見学の様子



- ◆「間歩って何だろう」というレベルから始まったが、日本遺産について知ったうえで、銀の坑道を実際に歩くことができ、とても良い経験になった。子どもたちにも還元していきたいと思った。
- ◆初めて石切場に行きましたが、こんなにも魅力的な場が近くにあったなんて知りませんでした。ガイドさんの話を聞く中で、ストーリーを感じながら見学することができました。
- ◆採石場の今の様子を見ることができ、歴史を感じる事ができた。これらの地域にある資源を「どのように活用（教材化）するか」ということは、今後の課題であると感じた。
- ◆地域のすばらしい文化財について知ることのできる貴重な体験となった。また他校の先生方と交流することもでき、とてもよい時間となった。
- ◆他校の先生方と授業や学校行事以外のところで関わることのできるよい機会だった。

【担当者から一言】石橋圭子（派遣社会教育主事）

日本遺産の手法や大田市の日本遺産のストーリーを学ぶことで、そのおもしろさや市内全域で地域教材として活用できることを参加者に感じてもらえたと思います。ガイドの方の熱い思いにふれ、刺激となった参加者もいたようでした。今後は、見学だけで終わらない研修の形や教職員の交流場面の工夫をしていきたいと思っています。

【事業の目的】

大田市民の教育に対する関心と理解を一層深めるとともに、次代を担う子どもの育成を期し、家庭、学校及び地域社会が連携して大田市の教育の充実と発展を図るために、「おおだ教育月間」を設けた。

大田市教育委員会は、学校、教育に関係する機関及び団体、事業者並びに市民等と連携し、その協力の下、おおだ教育月間の趣旨に沿った取組を実施するとともに、広く市内への普及を図り、市民による主体的な取組を促進するものとする。

【事業の概要】

テーマ 「大田の魅力ある教育 ～知る・考える・つながる～」

教育に関わる取組を配信

○配信期間 ぎんざんテレビ（ケーブルテレビ局） 令和5年2月1日（水）～28日（火）
大田市公式YouTubeチャンネル 令和5年2月28日（火）～令和6年1月末

○内容 大田の子どもたちの活躍と教育に関わる魅力的な取組を皆さんに知っていただくため、子どもたちの学びや表彰の様子を動画にまとめ、ぎんざんテレビや大田市公式YouTubeチャンネルでお届けしました。

大田小学校 「みんなのじまん おおだ」
朝波小学校 「お米博士になろう 米づくり体験」
仁摩小学校 「石見銀山の魅力発見！」
大田西中学校 「世界遺産からSDGsを学ぶ」
出雲養護学校瀬摩分教室 「カラフル's 瀬摩分教室」
県立瀬摩高等学校 「かなえられる夢はここにある」
大田幼稚園 「幼稚園はわくわくがいっぱい」
教育部総務課 「鈴木賞」「教育委員会表彰」
石見銀山課 「作文コンクール受賞者朗読」
山村留学センター 「山村留学生の個人体験」

静間小学校 「静間大好き♡大田大好き♡静間小学校」
大森小学校 「開校150周年とともに」
第三中学校 「60年余り受け継がれる窯芸活動」
出雲養護学校大田分教室 「大田分教室の紹介をします♪」
県立大田高等学校 「ダイコウプロジェクト（地域課題解決型学習）」
あすなる教室 「不登校児童生徒の学びの場」
人権推進課 「大田市消費生活センターの取り組み」
社会教育課 「図書館まつり」
学校給食センター 「瀬摩高校コラボ献立」

おおだ教育フェスタ

- 日時 令和5年1月28日（土） 9:30～12:00
- 場所 島根県立男女共同参画センター あすてらす
- 内容 ①「未来を創る おおだの子どもたち」
大田市の学力育成に関わる取組紹介
- ②おおだ教育未来講演会
講師 脚本家 佐藤万里 【演題】心に残る学びと教え
- ③展示コーナー
各課の取組紹介



▲講師 佐藤万里さん

〈講演会感想〉

- ★印象に残った話は「大切なのは夢をもつこと。だが、叶わないこともある。うまくいかなかったときには発想を転換させる力、考える力が必要。」だということ。自分もこうした視点を大切に、子どもたちに関わっていきたいと思います。
- ★関わりが深いとはいえ、県外在住の講師の方から大田の事跡を聞くと新鮮だった。また、経験からの知識、乗り越える力、行動する力のエピソードは納得感が大であった。
- ★考える力、乗り越える力、とても大事だと思います。どうしたら子どもたちに伝わるのか、学ぼうとしてくれるのか…壁に当たっています。いろんな気づきをもたらした講演でした。
- ★子どもたちの手本となれる大人、まだまだ精進が必要と感じました。大田にいる私たちよりも子どもをよく見ていただいて、私ももっとよく見て、よいところを見つけてあげたいと思いました。
- ★大田の未来を担う子どもたちにとって大切な提言を佐藤さんからいただいた。聞いただけでなく、実践することが大切であることを教えてもらって、まずできることからやってみる。子どもたちをいっぱい褒めてやるのが大切であることを改めて教えられたと思う。
- ★佐藤さんの講演を聞きながら、小学生のころを思い出した。短い文章を暗記していき、できれば何かスタンプがもらえたように記憶している。子どもと一緒に親も覚えた懐かしい思い出がよみがえりました。私にとっての、一握みの砂金は何だったのかとちょっと考えさせられました。

ふるさと教育広報誌作成・配布

(※p.12参照)

市内小・中学校では、ふるさと教育に取り組んでいます。ふるさと教育には、多くの地域の方が関わってくださり、各校で特色ある学習が行われています。自分の住んでいる地域のことはもちろん、市内の魅力ある「ひと・もの・こと」について広く知っていただきたい思いから、その魅力ある学習を各校1つずつピックアップして、広報誌にまとめ、市内に全戸配布しました。

【担当者から一言】石橋圭子（派遣社会教育主事）

大田市の教育を広く知っていただくために、「おおだ教育フェスタ」を幅広い年代が参加しやすい内容を企画していきたいと思っています。

「教育の魅力化」用語解説

【持続可能なおおだ】

「おおだのもつよさ（自然・歴史・伝統文化・遺産・人とのつながり等）を守りつつ、将来の世代が必要とするものを損なうことなく、大田市民が心豊かに生活できるおおだ。

【生き抜く力】

主体的に課題を見つけ、様々な他者と協働しながら、定まった答えのない課題にも粘り強く向かっていく力。

- ①多様で豊かな体験による確かな学力
- ②自立、共生する心
- ③たくましく健やかな体

【教育魅力化コーディネーター】

島根県における「教育の魅力化」事業のキーパーソン。県内では約50人のコーディネーターが教育魅力化のために活動中。活動内容や雇用形態は様々。学校の総合的な学習の時間に関わったり、学校経営そのものに重要な役割を果たしたり、部活動や寮中心に活動するコーディネーターもいます。雇用形態も様々。大田市の場合は、事業開始時の平成28年度は大田市の地域おこし協力隊として採用され、会計年度任用職員として活動しています。市町村の雇用ですが、席は各学校にある場合が多く、行政・学校・地域の間を奔走しています。なお、略称はCO。

【高校魅力化コンソーシアム】

和訳すると共同事業体。島根県が推進する高校魅力化事業における用語。目標やビジョンを、地域の住民や市町村、小・中学校、社会教育機関、地元企業等と高校とが主体的・創造的な対話を行いながら協働で策定し、地域と一体となって子どもたちを育む「地域とともにある学校」をつくるための、協働体制。簡単にいえば、高校経営を、高校だけではなく、地域のいろんな人を交えて行う体制のことです。

【探究学習】

探究学習は、自ら課題を設定し、解決に向けて、情報を収集・整理・分析したりしながら進める学習活動のことです。生徒の自ら学び、自ら考える力の育成をめざしています。

【コミュニティ・スクール】

コミュニティ・スクールは、学校運営協議会を導入した学校のことを指します。学校と地域住民・保護者等がともに知恵を出し合い、学校運営に意見を反映させることで、一緒に協働しながら子どもたちの豊かな成長を支え、「地域とともにある学校づくり」をより推進するための仕組みです。CSとも表記します。高校におけるコンソーシアムで構築される協働体制とも重なる部分が大きい制度です。

【地域みらい留学】

島根の県立高校を中心に行っている生徒の全国募集事業。一部私学や小中学生対象の場合もあります。東京・大阪等で説明会を開催します。近年は一般財団法人地域・教育魅力化プラットフォームが主催する全国の公立高校の生徒全国募集イベント「地域みらい留学フェスタ」と併催されています。

【山村留学事業】

1968年に長野で始まった都市と農村の子どもたちの交流事業。大田市では、1993年から小中学生向けの山村留学事業を行っています。夏休み等に行われる5日間の短期山村留学や、北三瓶小中学校に転入し、1年単位で自然体験活動を行う長期山村留学事業を実施しています。

【ふるさとキャリア教育】

魅力的なひと・もの・ことに出会い、学ぶことを通して、自分らしい人生を切り拓く力を養います。

【キャリア・パスポート】

文科省が推進する小中高で一貫的に行われるキャリア教育事業。子どもたちが自分のキャリア意識を常に振り返ることのできるポートフォリオ（ノート）を持つことで、キャリアに対する考え方や意識を向上させます。

【0歳から18歳までの子どもの育ちと学びのめやす】


子どもたちの『生き抜く力』を育てるために、0歳から18歳までの育ちと学びのめやす（大田市統一カリキュラム）を作成し、子どもたちが健やかに伸びていく姿を表わしたものです。子どもの発達段階に応じて付けたい力や関わり合い方等を示しています。

【地域学校協働活動】

「地域と学校とが連携・協働して地域全体で未来を担う子どもたちの成長を支えていく様々な活動」の総称。国が示している活動は「学校支援活動」「放課後子ども教室」「土曜日の教育活動」「学びによるまちづくり」「地域社会における地域活動」等があげられています。

【未来志向の教育】

自分の未来に夢や希望のもてる教育。未来を生きる子どもたちに、この社会が将来どう変わっていくかをイメージし、そのために自らがどのような力をつければよいかを考え、チャレンジしていくことを支える教育。



大田市教育魅力化プロジェクト 令和4年度活動報告書
(令和5年3月発行)

[発行先・問い合わせ]

〒694-0064 大田市大田町大田口1111番地
大田市教育委員会 学校教育課
教育魅力化推進係

Tel: 0854-83-8179

Mail : o-kyomiryoku@city.oda.lg.jp

